

## ラテン・アメリカの 経済資料調査 (II)

さか た さだ よし  
阪 田 貞 宣  
と さか まさ お  
小 坂 允 雄

は し が き

本編は『アジア経済』4月号に掲載した前編に引き続きペルーほか6カ国についての報告である。

### V ペ ル ー

近代ペルーの歴史は先住者たるインカ帝国の抹殺から始まるが、1553年、征服者フランシスコ・ピザロ(Francisco Pizarro)により建設されたリマ(Lima)は、長年にわたってスペイン植民地政策の中心であり、現在もあらゆる面でペルーの中心である。ペルーに関する資料の収集も、リマに始まりリマに終わるといえよう。

#### 1. ペルー中央準備銀行 (Banco Central de Reserva del Perú)

1962年の改組によって完全に国有の中央銀行となった当行は、ペルー経済についての活発な調査活動を行なっている。経済調査部(Departamento de Estudios Económicos)は、これらの調査活動の成果を基にして、いくたの貴重な資料を刊行している。おもな刊行物はつぎのとおりである。

##### (1) *Renta nacional del Perú, 1942~1960, 1962.*

国民所得の推計を行なうとともに、その材料となった数字を基として、ペルー経済の動きを、主として貨幣の面からとらえ分析したものである。1960年に刊行された1942~1958号以降毎年刊行されている。

##### (2) *Actividades productivas del Perú; analisis y perspectivas, 1961.*

同銀行が年ごとに行なってきた国民所得に関する調査に基づいて、ペルーの産業の全体を生産面に重点をおいて詳細に分析したものである。

##### (3) *Plan nacional de desarrollo económico y social del Perú, 1962~1971.*

同銀行を初め、諸行政機関の共同作成になる10カ年の

開発計画書である(アジア経済研究所訳、『ペルー経済社会開発計画1962~1971』、同研究所参考資料第54集、参照)。

#### (4) *Programación del desarrollo; actividades productivas del Perú, 1963.*

経済社会計画を各部門別に詳細な分析を行なったものである。3巻に分かれるが、内容はつぎのとおりである。

##### 第1巻 第1章 計画と現実との照合

##### 第2章 運輸交通(道路)

##### 第2巻 第1章 エネルギー

##### 第2章 運輸交通(鉄道等)

##### 第3章 住宅

##### 第4章 公衆衛生

##### 第3巻 第1章 工業

##### 第2章 教育

(5) そのほか、月刊の *boletín*、年刊の *memoria* があるが、当行のペルー経済に占める位置からいって、いずれもペルー経済の動向を伝える信頼すべき調査報告書である。

#### 2. 統計書

政府の統計書はあまり整備されていない。おもなものはつぎのとおりである。

##### (1) Dirección Nacional de Estadística y Censos, *Anuario estadístico del Perú, 1954. Boletín de estadística peruana, 1962.*

*Boletín* は1958年第1巻が刊行され、最近のものは上記 No. 6, Año V (1962) で、1961年までの資料が収録されている。

##### (2) Ministerio de Hacienda y Comercio, Superintendencia General de Aduanas, Departamento de Estadística, *Estadística del comercio exterior, 1962.*

#### 3. 国立図書館 (Biblioteca Nacional)

大蔵省の近代的な大庁舎が実際目立つアバンカイ通り(Avenida Abancay)は、古都リマには珍しい広々とした大通りであるが、この大通りに面した石造りの国立図書館は、大蔵省の庁舎と対照的に中世風のたたずまいを見せながら、堂々と、しかもひっそりと建っている。組織は8部、すなわち収集、分類・目録、参考・閲覧、書誌調査、手稿書・稀書、逐次刊行物、官公庁刊行物、および児童書の各部に分かれ、そのほか図書館員養成学校が付置されている。国立図書館の性格からしてその主たる目的がペルー文化の保存にあるのは当然であり、とくに逐次刊行物部、官公庁刊行物部の蓄積資料はしだいに価値を増してゆくであろう。また書誌調査部には写真室

(Laboratorio Fotográfico)があるが、かかる施設の皆無といつてよいラテン・アメリカ諸国にあって、内外からの資料の複製利用に応ずる唯一の施設として注目に値しよう。

#### 4. 一般書

リマにおける書店としてまずあげられるのは、*Librería Internacional del Perú S. A.* (Bora 879) と *Librería Juan Mejía Baca* (Arangaro 722) とであろう。前者は規模が大きく、南北アメリカ諸国およびヨーロッパ、とくにスペインと密接な関係を持ち、販売目録も作成している。後者はサン・マルコス大学に近く、こじんまりしているが、書籍の質は自然科学を除き、前者よりすぐれていると思われる。とくに社会科学関係の学術書は比較的そろっているといえよう。タイプ印刷の販売目録を出している。しかし、いずれも人文科学関係の図書が多いのはラテン・アメリカ諸国共通の特色である。なお、日本との取引はいままでのところないということである。

そのほか、雑誌の類としては *Peruvian Times*, *Latin-america* および勲業協会 (*La Sociedad Nacional de Industrias*) 刊の *Industria peruana* などがあげられよう。

## VI ボリビア

アンデスの重畳たる山脈と砂漠に閉ざされたボリビアは、ラテン・アメリカ大陸においても最も隔絶された国である。

人口の約60%は土着のインディオといわれ、また国民の約3分の2は農業に従事している。したがって、国としての規模も小さく、農業のほかはおもに鉱業によっている。ラパス (*La Paz*) は経済的にも文化的にもボリビアの中心であるが、工業らしきものもなく、地方にはコチャバンバ (*Cochabamba*)、オルーロ (*Oruro*)、スクレ (*Sucre*, 法律上の首府)、ポトシ (*Potosi*)、タリハ (*Tarija*)、サンタ・クルス (*Santa Cruz*) などの小都市が孤立して散在している。このような状態において、ボリビアの経済に関する資料は、もっぱら官公庁の出版物にたよるざるをえないが、これら官公庁出版物も、集中して入手することは困難である。また、図書館等の資料センターも整っていない。

### 1. 官公庁出版物

収集したもののうち、おもなるものはつぎのとおりである。

- (1) Banco Central de Bolivia, Sección Estudios

*Económicos y Estadística, Memoria anual.*

ボリビア中央銀行の年次報告は、当然金融に重点があるとはいえ、ボリビア経済の概況を知る上できわめて安定した、数少ない資料である。なお同銀行よりは *boletín* が刊行されている。

- (2) Ministerio de Economía Nacional, *Comercio exterior; Balanza comercial de Bolivia, 1950~1960.*

- (3) Ministerio de Economía Nacional, *Comercio exterior 1950~1959; importaciones exportaciones.* ともに貿易統計である。

- (4) Ministerio de Hacienda y Estadística, Dirección General de Estadística y Censos, *Anuario industrial, 1950~1957.*

1957年までの工業統計である。なお、同統計局からは *boletín estadística* その他が刊行されている。

- (5) Junta Nacional de Planeamiento, *Planeamiento; revista trimestral.*

ボリビアの経済企画庁にあたる Junta Nacional de Planeamiento の機関誌である。副題にあるように季刊誌となっており、1960年12月の創刊であるが、現在まで引き続き刊行されているのか否か、残念ながら今回の調査では明確にしえなかった。1961年9月の3-4-5合併号は、ボリビアの経済10カ年計画 (*Plan de desarrollo económico y social, 1962~1971*) を載せている。この10カ年計画は、後に新たに2カ年計画により修正補完されているが、ボリビア経済の基本構造を知る上にも不可欠な資料である。

- (6) Servicio Agrícola Interamericano, División Economía Agrícola, *Estadísticas estimativas de la producción agropecuaria, 1960~1961.*

各地方の農業統計に関するパンフレットである。今回は、Cochabamba, Chuquisaca, Tarija, La Paz の分のみ入手した。

### 2. 民間出版物

前述のごとき事情で民間出版物はあまり振るわない。ラパスにおいても大きな書店は見当たらず、市の中心街にある *Librería y Editorial "Juventud"* にややまとまってボリビアの出版物が見受けられた。経済に関する資料のうち、最近のもので比較的出版の多いと思われる革命に関するもの若干をあげれば、つぎのとおりである。

Demetrio Canelas, *Aspectos de la revolución boliviana; la reforma agraria y temas anexos, 1958.*

R. Alfonso García, *Diez años de reforma agraria en Bolivia, La Paz, Dirección Nacional de Infor-*

maciones, 1963.

*Reformas constitucionales*, La Paz, 1959.

E. Avila Echazu, *Revolución y cultura en Bolivia*, Tarija, 1963.

G. Bedregal, *La ruta historia de la revolución boliviana*, La Paz, 1958.

またボリビア経済史として、少し古い Luis Peñaloza, *Historia económica de Bolivia*, 1953, 1954, 2v. をあげよう。

## VII パラグアイ

長年ストロエスネル (Stroessner) 政権の一党独裁の下にあるパラグアイの経済は、ここ数年 I. M. F. やアメリカ合衆国の援助の下に著しく改善されたが、経済の中心は依然として農業であり、経済の規模も小さく、出版活動は一般的に低調である。スペイン植民以来の古い都アスンシオン (Asunción) においてすら、パラグアイの出版物を扱う書店は Librería Juan de Salazar のみしか見当たらず、外国書を扱う書店らしき書店さえない。将来の経済の充実がやがては書店の隆盛を促すであろうが、現在に関するかぎり、見るべきものないのは残念である。国立図書館 (Biblioteca Nacional) は住宅街の真中にある小じんまりした新しい建物であるが、規模は小さく、近代的図書館とは言いがたい。ただ、官公文書などの類は保存されており、その方面の利用者には有力な情報源であろう。以下、官公庁出版物を中心にして、おもなものをあげればつぎのとおりである。

(1) Servicio Técnico Interamericano de Cooperación Agrícola, *Manual estadístico del Paraguay, 1941~61*, Asunción, 1963, 114 p.

農業省 (Ministerio de Agricultura y Ganadería) に属するこの機関 (略称 STICA) は、アメリカ合衆国の専門家の協力の下に、農業技術の向上、家畜改良、農業調査、農業普及などを目ざしており、これらの諸事業に関連するいくたの刊行物をだしている。本書はその第 254 号に当たり、パラグアイ経済に関する諸統計を主として時系列に再編したものである。序文によると 1951 年、1955 年、1958 年刊行のものに引き続く第 4 版のハンドブックである。

(2) Ministerio de Agricultura y Ganadería, Departamento de Economía Agrícola, *Boletín estadístico mensual*, No. 42, Octubre 1963.

農業省は上述 STICA 関係のもののほか、農業統計月報を出している。10ページ内外の簡単なものであるが、農業の動向を知る上には欠かせない。

(3) Ministerio de Hacienda, Dirección General de Estadística y Censos, *Boletín estadístico del Paraguay*, Diciembre 1962.

統計局の月刊の機関誌である。貿易統計を収載している。

(4) Banco Central del Paraguay, Departamento de Estudios Económicos, *Boletín estadístico mensual*, No. 63/64, Agto./Sbre. 1963.

(5) Banco Central del Paraguay, *Memoria y balance general*.

中央銀行の月報、年報はパラグアイの場合にも、経済の概況を知る上に貴重な資料である。

## VIII ブラジル

ブラジルの夜は暗い。これは当たり前の話ではない。電力不足から、電灯が暗いのである。夜、薄暗いホテルの1室で、1人で寝転んでいると、ブラジルの未来について、明るいイメージはわいてこない。事実、38億ドルに上る短期債務、年間80%の物価上昇率、鉄道ストライキ、政治不安と羅列しただけでも、苦労性の日本人にとっては、絶望的でさえある。ところが、真昼間のリオ・デ・ジャネイロの印象は、底抜けに明るい。リオ・ブランコ通りのはなやかなショウウィンドー、コパカバーナの海岸で背を焼く人の群れ、安くて豊富な食事。これらのことは、ブラジルが持つ一つの面をさしてはいても、すべての面を語ってはいない。われわれは、ただブラジルが持つ包容力の大きさに驚くばかりであり、それが、この国の可能性の大きさにつながるのであろう。

ブラジルには、50万の日本人がいる。サンパウロの日本人街であるガルボン・ブエノには、日本人経営の旅館、映画館、食堂、書店などがあって、ほとんど日本と変わらない生活を送ることができる。南米銀行、東山農場を初めとする現地日本人の経済的実力は、サンパウロ大学やその他各分野で活躍しつつある2世・3世にささえられて変化・発展し、ブラジルの可能性の一翼をになうことだろう。

こういった魅力あるブラジルに関する資料は豊富であり、したがって、研究機関も多い。日程の関係から、開発銀行、通貨信用管理局、バルガス研究所を訪れることができなかつたのは残念であった。なお、以下の調査に当たっては、着任間もない当研究所のリオ・デ・ジャネイロ派遣員である桜井雅夫氏から、多くの助力を得た。

1. バーナス経済調査所 (Pesquisas Econômicas Banas, S. A.)

## 現地報告

1949年創立。現地電話会社などの出資による株式会社組織。所長は、ジャーナリスト出身のエコノミストである Gerald Banas, 調査所の名称は、この所長の名前からとったものである。本社はサン・パウロにあり、国内各州に支所をもって、企業調査、工業立地調査、市場調査、経営相談など、幅広い活動を行なっている。こういった活動は、ブラジル国内ばかりでなく、海外の類似機関とも密接に結びついている。たとえば、調査面では、イギリスの Economist Intelligence Unit と提携し、編集面では、アメリカの McGraw-Hill と、その *International Management* のブラジル版 *Direção* を出版することによって、深い関係にある。職員は、別会社として出版部門を担当する Editôra Banas, S. A. を含めて、約110人、調査部門だけでは、約30人、その組織は以下のとおりである。

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| Pesquisa Mercado | 調査関係             |
| Anuários         | Banas report の作成 |
| Banas Informa    | 雑誌編集             |

出版物 (Banas report) には、つぎのものがある。いずれも、その内容は、年間のブラジル産業概観と、会社便覧からなっている。年間約10冊が出版されている。

- (1) *Os Transportes no Brasil*, 1961.
- (2) *O Capital americano e canadense no Brasil*, 1961.
- (3) *O Capital europeu e outros no Brasil*, 1961.
- (4) *A Contribuição do "Know How" a indústria brasileira*, 1961.
- (5) *Bancos e companhias de investimentos*, 1961.
- (6) *Indústria de papel e celulose*, 1961.
- (7) *A Indústria brasileira de plásticos*, 1962.
- (8) *A Indústria de material elétrico e eletrônico*, 1962.
- (9) *A Indústria de máquinas e ferramentas*, 1962.
- (10) *A Indústria química no Brasil*, 1962.
- (11) *A Siderurgia no Brasil*, 1962.
- (12) *Productos farmacêuticos*, 1963.
- (13) *A Indústria automobilística*, 1963.
- (14) *A Indústria de gêneros alimentícios e bebidas*, 1963.
- (15) *Embalagens*, 1963.
- (16) *Elétrica, Eletrônica*, 1963.
- (17) *Papel, Plásticos*, 1963.
- (18) *Máquinas, ferramentas*, 1963.
- (19) *Química*, 1963.

なお、このほかにブラジル産業界のニュース、貿易動向を速報する

- (20) *Banas informa* (週刊) (1963～)

がある。

### 2. ブラジル地理統計調査院 (Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística, 略称 IBGE)

統計資料の編纂、地図の作成などを目的とした、ブラジルの地理・統計に関する国立の調査研究機関、Conselho Nacional de Estatística (CNE), Conselho Nacional de Geografia (CNG), からなっている。CNE には、統計専門家の養成を目的とした Escola Nacional de Ciências Estatísticas が付置されている。CNE が編纂した統計資料は、リオ市内の窓口でまとめて入手することができる。主要資料は以下のとおりである。

- (1) *Anuário estatístico do Brasil*, 1955~62.
- (2) *Comércio exterior do Brasil, 1960*, por países, segundo as mercadorias.
- (3) *Comércio exterior do Brasil, 1961*, por países, segundo as mercadorias.
- (4) *Comércio exterior, 1962*, por mercadorias, segundo os países.
- (5) *Movimento bancário do Brasil*, 1959~1960.
- (6) *Bibliografia estatístico-geográfica brasileira, 1936~1950*.
- (7) *Ferrovias do Brasil*.
- (8) *Produção industrial brasileira, 1956~58*.

### 3. 国立図書館 (Biblioteca Nacional)

1810年創立。Ministério da Educação e Cultura に所属。蔵書数約100万。ブラジルに関するポルトガル語のコレクションを初めとして稀観書が多いが、また、近代的国立図書館として、読書室を参考図書室と一般読書室に分け、国際交換による資料収集を重視し、図書館学校を付置し、Copyright Library としての機能も十分に果たしている。1886年以降、半年刊のナショナル・ビブリアグラフィックとして、*Boletim bibliográfico* を出版している。

### 4. 書店

Livraria Freitas Bastos, Civilização, Cultura Universal など、出版社を兼ねた大書店が多い。いずれも、かなり年をとった男子店員が、キビキビと店内を案内してくれる。ブラジル経済に関する資料は、その経済の可能性の大きさに比例して、豊富である。購入した資料のうち、おもなものはつぎのとおりである。

- (1) Celso Furtado, *A pré-revolução brasileira*, 1962.
- (2) A. C. Teixeira Leite, *Gênese sócio-econômica do Brasil*.
- (3) Oliver Ónody, *A Inflação brasileira (1820~1958)*, 1960.

- (4) Passos Guimarães, *Inflação e monopólio no Brasil*, 1963.
- (5) P. W. Ashton, *Companhias de investimentos*, 1963.
- (6) Aristoteles Moura, *Capitais estrangeiros no Brasil*, 1960.
- (7) Fundação Getulio Vargas, *Impacto da ação do govêrno sobre as emprêsas brasileiras*, 1963.
- (8) C. Prado Júnior, *Evolução politica do Brasil*, 1961.
- (9) Octavio Ianni, *Industrialização e desenvolvimento social no Brasil*, 1963.

## IX ウルグァイ

総人口約300万。牧草と林におおわれた小さな美しい国。海の青と公園の緑に囲まれた首都モンテ・ビデオでは、ちり一つない道路の上を、一時代前の箱型自動車が、端然と走っている。後述のALALC発生の地であるプラタ・デル・エステには、花に囲まれた別荘が散在する。このウルグァイは共和国ではあるが、大統領はいない。9名の執政で構成される執政協議会が内閣に相当し、協議会議長が総理大臣に当たる。教育水準は高く、社会保障は充実している。しかし、こういった高い生活水準をささえるウルグァイ経済は、沈滞を脱し切れない。後述のCIDEにかける期待、ALALCとの結びつきが、今後の方向を決定しそうである。

### 1. ラテン・アメリカ自由貿易連合 (Asociación Latinoamericana de Libre Comercio, 略称 ALALC)

事務局は、モンテ・ビデオ市第1の高層ホテル、ピクタリア・プラサの8階にある。ラテン・アメリカ経済発展の一つのかぎを握っているかにみえるこのALALCの前途は、必ずしも順調ではない。加盟諸国間の経済的対立は激しくなった。工業化の進んだブラジル、メキシコ、アルゼンチンと、その他の諸国との、域内貿易に占める割合は、ますます開きつつある。ALALC発生の地であるウルグァイを例にとっても、ブラジルのシンガー、ベントなどが、国内市場にどんどんはいつてくる一方、羊毛・食肉の輸出は伸びず、国際収支はいつこうに改善されない。多かれ少なかれ、こういった事情を持つ、ウルグァイ、チリ、コロンビア、ペルーのいわゆる“中規模経済”4カ国は、エクアドル、パラグァイの“低開発国”に次いで、ALALC内部での関税協定、産業補完協定について、優遇措置を要求した。このことは、ALALCの必要性を認めつつも、その内部において、現在の世界貿易におけると同じように先進国と低開発国の対立が顕著

になってきていることを示している。

ALALCの活動状況、加盟各国の経済状態に関する資料としては、これまで、*Mercado común de America Latina* (月刊)があったが、経営不振のため昨年5月より休刊している。

ALALC自体の出版物は、Servicio de Biblioteca y Documentaciónで扱っており、おもな資料はつぎのとおりである。

#### (1) *Boletín de la biblioteca* (半月刊) (1963～)

資料室受け入れの図書・逐次刊行物の資料速報。ほとんどが国際機関発行の逐次刊行物である。国際貿易に関する雑誌記事索引がついている。

#### (2) *Documentación* (月刊) (1963～)

ALALCの規約、決議、専門家グループの提出資料、産業委員会その他、各種委員会資料、各国政府提出資料など、ALALCのドキュメント類を一括したリスト。ALALCの諸活動は、この一括リストで、おさえることができる。その他

#### (3) *Resoluciones*

#### (4) *Lista nacional y lista especiales*

決議については、速報版が、部内資料として配布されている。

### 2. 経済発展投資委員会 (Comisión de Inversiones y Desarrollo Económico, 略称 CIDE)

経済開発計画作成のために設立された政府機関。長期、短期の経済計画の作成ばかりでなく、その背景となるウルグァイ経済の現状分析の結果も、随時発表している。CIDEは、いずれの省にも所属しない独立の機関であり、貿易・金融・エネルギーなどの16作業グループで構成されている。経済計画の作成を援助するために、ECLAから専門家グループが派遣されている。わたくしが訪問した当時は、1963年末までに“進歩のための同盟”に提出するため、1964年から1967年までの短期経済計画を作成中であり、まだその結果を入手することができなかった。CIDEの出版物には、ほかに、つぎのものがある。

#### (1) *Estudio económico del Uruguay; evolución y perspectivas*, Tomo 1, 2, 1963,

CIDEが分析したウルグァイ経済の現状と展望をまとめたもの。その概要は、1945～54年に、ウルグァイの工業生産の伸びは、年率8.5%であったが、1954～61年においては、それは、わずか0.3%でしかなかった。1957年以来、工業完成品の国内供給度は低下する一方である。

過去10年間、輸入は1億8000万ドルから2億5000万ドルの水準にとどまっているが、輸出は最大の品目である羊毛・食肉が伸びず、羊毛にいたっては、1961年において、世界の輸出額に占める割合が、それまでの5%から2.4%に低下した。このような経済の停滞から脱皮し、1人当たりの国民所得の伸びを、年間2.5%に保つためには、一方では、ALALC市場と結びついた輸出の増大と、他方では関税保護による輸入代替産業の振興が必要である、としている。

### 3. 共和国大学 (Universidad de la República)

1833年創立。ウルグァイにふさわしく、こじんまりした大学であるが、大学院課程の研究所は充実している。経済関係だけでも、Instituto de Finanzas, Instituto de Estadística, Instituto de Economía Monetaria y Bancaria, Instituto de Teoría y Política Económicas, Instituto de Hacienda Públicaの諸研究所があって、それぞれ、年報、雑誌、単行図書のシリーズを発行している。Instituto de Hacienda PúblicaのDeanであり、中央銀行の副頭取でもある Azzini 博士によれば、今年は、アメリカのレオンチェフ教授を招聘して、ウルグァイの産業連関表を作る予定だそうである。

### 4. ウルグァイ共和国銀行 (Banco de la República Oriental del Uruguay)

中央銀行、1896年創立。調査部は、Departamento de Investigaciones Económica。資料は以下のとおり。

(1) *Revista* (季刊) (1963~ )

ウルグァイ経済の調査資料。

(2) *Suplemento estadístico de la Revista Económica* (季刊) (1963~ )

前記資料の統計篇。

(3) *Boletín mensual; selección de temas económicos* (月刊) (1963~ )

ラテン・アメリカの経済専門誌から、主要論文を転載したもの。

## X アルゼンチン

モンテ・ビデオからラ・プラタ河をひと飛びすれば、もう、眼下に、ブエノス・アイレスの高層建築が広がる。その間に点在する緑の広場、その最大のパレルモ公園にあるアエロ・パルケへ、飛行機は着陸する。そこからは、穀物倉庫が立ち並ぶブエノス・アイレス港を通過して、市の中心まで30分とかからない。そこにある南米一の大都会

のはなやかさと広大さを経験したあとでは、アルゼンチン経済の不振は信じがたい。就任間もないイリア大統領は、選挙中の公約に基づき、外国石油会社との資源開発契約を破棄し、続いて外国系企業に対する税制の優遇措置をも廃止した。国際収支は、1963年の1月から10月までに、2億7000万ドルもの黒字を記録したが、これは、輸出が伸びたためではなく、経済不振から、きびしい輸入制限措置を取ったためである。国鉄の赤字は国家予算の半額を占め、年間の物価騰貴率は40%に及ぶ。ストライキの不安は絶えない。同じ経済不振の状態にあっても、ブラジルに比較して、見通しは暗い。1964年から実施に移すために、国家経済発展審議会では、再建5カ年計画を審議中であった。

### 1. 統計局 (Dirección Nacional de Estadística y Censos)

Secretaría de Estado de Hacienda 所属。図書室は、ラテン・アメリカの統計資料約1万4000冊を所蔵。ここで、統計資料をまとめて購入することができる。

(1) *Comercio exterior, 1962*, Tomo 1, 2, 1963.

(2) *Comercio exterior* (月刊) (1963~ )

(3) *Boletín mensual de estadística* (月刊) (1963~ )

### 2. アルゼンチン中央銀行 (Banco Central de la República Argentina)

資料配布部門は、Departamento de Trámite General.

(1) *Boletín estadístico* (月刊) (1958~ )

(2) *Annual report* (1935~ )

### 3. ブエノス・アイレス大学 (Universidad de Buenos Aires)

1821年設立。ラテン・アメリカ随一の規模と研究水準を誇る大学である。特に、法学部、医学部は、最も充実した内容を持っている。

Facultad de Ciencias Económicas

図書室は、約7万冊の蔵書を持つ。資料はつぎのとおり。

(1) *Boletín bibliográfico* (不定期) (1963~ )

受け入れ資料速報、受け入れ雑誌の記事索引を含んでいる。

(2) *Revista de ciencias económicas* (年2回) (1963~ )

Colegio de Graduados en Ciencias Económicas と Centro de Estudiantes de Ciencias Económicas が、経済学部と共同して編集に当たっている学術雑誌。

Instituto Bibliotecológico

図書館学の研究、各学部図書館員の研修を行なう研究

所であるが、大学の書誌センターとしての機能も持っている。大学出版物のカタログ作成などの一般的な資料リストの作成を主とした書誌サービス、各学部図書室のユニオン・カタログ、アルゼンチン諸大学のユニオン・カタログの所蔵、マイクロ複写サービスなど、ブエノス・アイレス大学の中央図書館としての機能を果たしている。

(3) *Guía de las bibliotecas de la Universidad de Buenos Aires*, 1962.

各学部図書室の蔵書数、職員数、閲覧時間、目録の種類、複写サービスの有無、特殊コレクションなどについて書かれたブエノス・アイレス大学の図書館案内。

(4) *Catalogo de las publicaciones de la Universidad de Buenos Aires, 1945~50.*

(5) *Nomina de publicaciones periódicas de bibliotecología y documentación*, 1958.

4. 連邦投資審議会 (El Consejo Federal de Inversiones)

1959年初、共和国政府の代表者ならびにブエノス・アイレス市、その他各地方政府の経済行政の担当者の会合において設立が決議された、地域開発のための諮問機関。地域経済開発のための基礎的調査、開発に必要な投資政策の勧告と助言を、おもな目的としている。1959年末組織改正が行なわれ、参加各地方政府のメンバーで構成される総会、代表者で構成される恒常的な委員会、事務局などが整備された。発行資料は多数あるが、入手しえた資料は、つぎのとおりである。

(1) *Documentación económica*, Año 1, número 1, 1963.

(2) *Análisis económico de la provincia de la pampa, II: Apéndice estadístico*, Depto. de Desarrollo Económico, 1963.

(3) *Los Fondos comunes de inversión y el desarrollo regional*, 1960.

(4) *Zona latinoamericana de libre comercio; reseña jurídica*, 1963.

(5) *Programa conjunto para el desarrollo agropecuario e industrial*, Tomo 1~4, 1962~63.

(6) *La Zona latinoamericana de libre comercio y las económicas regionales; colonización e inmigración.*

5. 経済社会研究所 (Instituto de Desarrollo Económico y Social)

1961年設立。1958年に、Gobernación de la Provincia de Buenos Aires 所属の Junta de Planificación Económica が編集を担当して、経済研究誌 *Revista de Desarrollo*

*Económico* (季刊) を発行していたが、1961年にそれを引き継ぎ、民間機関として、新たに調査研究機能を加えて、当研究所が発足した。代表者としては、前の Junta de Planificación Económica の委員長である Norberto González が引き続いてその任に当たり、雑誌は改題して *Desarrollo económico* となった。調査研究は、まだ軌道には乗っていないが、ラテン・アメリカにおける経済研究者約 140 人を会員に、年間 4~5 回の研究セミナーを開催し、報告書を出版している。研究セミナーのテーマには、“経済計画”、“均衡発展と不均衡発展”、“ラテン・アメリカの社会変動”、“アルゼンチンの地域経済”などがある。

(1) *Desarrollo económico* (季刊) (1962~ )

(2) E. Hagen, *Cambio social y desarrollo económico*, 1962.

(3) José Luis de Imaz, *Pucará y Jasimaná; el desarrollo económico y social en dos comunidades indígenas*, 1963.

(4) Torcuato Di Tella, *Estratificación social e inestabilidad política en Argentina y Chile*, 1962.

6. *The Review of the River Plate*

1891年創刊。1962年以降については当研究所の図書資料部ですでに所蔵しているが、今回新たに、つぎのバック・ナンバーを購入した。

1953~60. 欠号: 2 nd. Semester 1957.

7. 書店

ラテン・アメリカ諸國中、最も出版活動の盛んな国だけあって、アルゼンチン関係の資料はもちろん、スペイン語に翻訳された世界各国の出版物を入手することができる。El Ateneo, Librerías L. E. A., Librería Ulises が主要な書店であるが、特に、El Ateneo は、ラテン・アメリカ諸国に支店を持ち、資料目録、出版物案内を整備した、出版社を兼ねた書店である。購入資料は、つぎのとおりである。

(1) A. Frondizi, *Petróleo y nación*, 1963.

(2) J. V. Liceaga, *Petróleo!*, 1963.

(3) O. Popescu, *Ensayos de doctrinas económicas argentinas*, 1963.

(4) R. Zorraquin Becú, *La Organización política argentina*, 2 d. ed, 1962.

(5) Julio Notta, *Crisis y solución del comercio exterior argentino*, 1962.

(6) Ricardo E. Olivori, *El Comercio exterior argentino*, 1963.

(7) W. M. Beveraggi Allende, *El Servicio del capital extranjero y el control de cambios*, 1954.

(8) J. José Real, *30 años de historia argentina*,

1962.

- (9) Jaime Fuchs, *La Penetración de los trusts yanquis en la Argentina*, 1959.
- (10) Rogelio Frigerio, *Los Cuatro años (1958~1962); política económica para argentinos*, 2d. ed, 1962.
- (11) A. Frondizi, *Política económica nacional*, 1963.

XI チ リ

アルゼンチンのパンパスを飛び、アンデスの山脈を越えて、サンチャゴにはいる。レストランで話しかけ、家庭に招待してくれるチリ人、街路の芝生にいていかに水をやっているチリ人、みな、親切で勤勉である。国連がラテン・アメリカ経済委員会を、チリに置いた一つの理由も、ここにありそうである。サンチャゴには、このECLAを初め、それに付随するラテン・アメリカ経済社会計画研究所、チリ大学、カトリック大学の諸研究所があって、経済研究においては、ラテン・アメリカ諸国で、もっとも高い水準を保っているといえる。経済企画庁の向坂正男氏がサンチャゴを訪問されたときは、チリ大学の経済計画センターで講演会が開かれ、日本の経済成長率について、討論がかわされたということである。

資料面では、やはりECLAの出版物は当然として、チリ大学の経済研究所の出版資料が重要である。

1. 統計局 (Dirección de Estadística y Censos)

Ministerio de Economía 所属。組織は、つぎの5部に分かれる。

- (1) Depto. de Coordinación y Asesoría Técnica.
- (2) Depto. de Estadísticas Vitales Culturales y Sociales.
- (3) Depto. de Estadística Económica.
- (4) Depto. de Geografía y Censos.
- (5) Oficina Administrativa.

統計資料編纂の上で、チリ大学の経済研究所 (Instituto de Economía) と密接な関係にある。その資料としては、*Estadística chilena* (月刊) (1928~), *Comercio exterior* (年刊) (1886~) がある。なお国民所得統計としては前記経済研究所の *Cuentas nacionales* (1951~), CORFO の *Cuentas nacionales de Chile, 1940~1954* などがある。資料配布部門は、División Biblioteca e Informaciones, Sección Distribución de Publicaciones.

- (1) *Boletín estadística* (月刊) (1963~)

2. 産業開発公社 (Corporación de Fomento de la Producción, 略称 CORFO)

1939年、チリのコンセプシオン大地震後、経済発展計画の作成、チリ産業のバランスある発展の促進、を目的として設立された。執行委員会の構成は、議会、政府、政府関係金融機関の代表者、商工会議所、農業協同組合などの民間団体からなっている。工業化のための投融資(製鉄、銅製錬、砂糖精製、石油開発)が主たる目的であるが、農業機械化のための融資が、大きな特徴である。CORFOが行なう調査研究としては、地質調査、海洋研究、農業・交通の発展計画、その他経済調査があり、研修・相談業務として、各産業部門の技術者、管理者の養成、技術相談、経営相談を行なっている。1962年の予算規模はE° 135,216,000、主として、出資会社からの収入、外国からの借款、政府資金によっている。CORFOの出資会社は、約70に及んでいる。おもなものは、つぎのとおりである。

| 名 称                                          | 資本金<br>(100万ペソ)    | 出資比率<br>(%) | 事 業<br>内 容 |
|----------------------------------------------|--------------------|-------------|------------|
| Servicio de Equipos<br>Agrícolas Mecanizadas | 2,209,628,305      | 100         | 農業機<br>械化  |
| Cia de Acero del<br>Pacífico, S. A.          | 30,000,000<br>(ドル) | 33.0        | 鉄鋼         |
| Sociedad Química<br>Harting, S. A.           | 20,000,000         | 82.5        | 化学         |
| Empresa Nacional de<br>Electricidad, S. A.   | 10,000,000,000     | 95.0        | 電力         |
| Empresa Nacional de<br>Petróleo              | 8,000,000,000      | 100         | 石油         |
| Soc. Aurífera<br>Rio del Oro                 | 17,647,000         | 51.5        | 銅精錬        |
| S. A. Maderera del Sur                       | 24,000,000         | 100         | 木材         |
| Hotelera Nacional, S. A.                     | 2,000,000,000      | 89.2        | ホテル        |
| Industria Azucarera<br>Nacional, S. A.       | 2,500,000,000      | 63.0        | 砂糖         |
| Manufacturas de Cobre                        | 2,520,000,000      | 28.0        | 銅製品        |

資料としては、つぎのものがある。

- (1) *Chile; oportunidad para el inversionista*, 1961.
- (2) *Programa de inversiones para 1952, 1951*.
- (3) *Veinte años de labor, 1939~1959*.

1939年の設立以来、20年間のCORFOの事業報告。

- (4) *Memoria, 1961, 1962*.

年間の事業報告書。

- (5) *Programa nacional de desarrollo económico, 1961~1970*.

経済発展10カ年計画。工業化の達成、農産物の増産と1次産品輸入の漸減、社会資本の充実を目標として、GNPの年間の伸び5%を期待している。所要資金総額約100億エスクード、内20億エスクードを国外資金にたよっている。これらの資金の部門別投資比率と、年間の生産増加率は、つぎのとおりである。



| 部門別投資比率 (%) |      | 主要部門年間生産増加率 (%) |     |
|-------------|------|-----------------|-----|
| 土木建築        | 25.3 | 農業              | 5.4 |
| 製造業         | 21.2 | 鉄鋼業             | 5.3 |
| 交通          | 14.5 | 製造業             | 7.2 |
| エネルギー       | 11.8 | 電力              | 9.0 |
| 農業          | 9.9  |                 |     |
| 鉄鋼          | 7.2  |                 |     |
| 通信          | 4.9  |                 |     |
| その他         | 5.2  |                 |     |

3. ラテン・アメリカ経済委員会 (Economic Commission for Latin America, 略称 ECLA)

ECLA の活動については、改めて述べるまでもない。中米共同市場、ラテン・アメリカ自由貿易連合の結成において、ECLA が示した推進力、経済分析の方法は、ラテン・アメリカ経済の発展を考える上に、必要不可欠のものとなっている。現在、事務局長は、R・プレビッシュの後を継いで、ベネズエラの大蔵大臣であった J・A・マヨープレが、その任に当たっている。組織はつぎのごとくである。

- Office of the Executive Secretary
- Editorial and Language Services
- Division of Administration
- Library
- Economic Development and Research Division
- Statistical Division
- Industrial Development Division
- Trade Policy Division
- Special Studies Section
- Joint ECLA/FAO Agriculture Division
- Transport Programme
- Energy and Water Resources Programme
- Social Affairs Division
- Joint ECLA/BNDE Group—Rio de Janeiro
- ECLA Washington Group
- Inter-American Agricultural Development Committee
- Mexico Office

職員は、約 120 人。そのほかに、チリで採用した補助的業務にたずさわる職員が約同数。国籍は、チリが一番多く、ラテン・アメリカ諸国を初めとして、世界各国に広がっている。日本人としては、A・渋沢氏がただ 1 人、技術協力の仕事に当たっておられる。資料としては、英語版、スペイン語版を合わせて多数あるが、スペイン語版の全資料について、寄贈を受けることになった。おもなものは、つぎのとおりである。

- (1) *Problemas teoricos y practicos del crecimiento economico*, 1952.
- (2) *Manual de proyectos de desarrollo economico*, 1958.

- (3) *Desarrollo economico, planeamiento y cooperacion internacional*, 1961.
- (4) *El Cafe en America Latina; problemas de la productividad y perspectivas*.
  1. *Colombia y el Salvador*, 1958.
  2. *Estado de São Paulo, Brasil*, 1960.
- (5) *El Mercado comun latinoamericano*, 1959.
- (6) *La Cooperación economica multilateral en America Latina*, 1. *Textos y documentos*, 1961.
- (7) *La Industria textil de Chile*.
- (8) *Problemas de la industria siderurgica y de transformación de hierro y acero en America Latina*. 1. *Informe de la Junta de São Paulo*, 1957.
- (9) *Tendencias y perspectivas de los productos forestales en America Latina*, 1963.
- (10) *Los Recursos hidraulicos de America Latina*. 1. Chile, 1960. 2. Venezuela, 1962.
- (11) *La Fabricación de maquinas y equipos en America Latina*.
  1. *Los Equipos industriales basicos en el Brasil*, 1962.
  2. *Las Maquinas herramientas en el Brasil*, 1962.
- (12) *La Política tributaria y el desarrollo economico en Centroamerica*, 1956.
- (13) *Compendio estadístico centroamericano*, 1957, 1961.
- (14) *Informe del Comité de Cooperación Económica del Istmo Centroamericano*, 1961.

4. ラテン・アメリカ経済社会計画研究所 (Latin American Institute for Economic and Social Planning)

1961年の第9回 ECLA 総会で決議され、翌1962年に ECLA 付置の研究機関として発足した。国連特別基金と米州開発銀行の援助を受け、各国経済計画担当者の養成、経済計画についての顧問団の派遣、計画技術の研究を、主要目的としている。所長は、国連貿易開発会議事務局長である R・プレビッシュ、職員は約45名、内30名はエコノミストであり、各プロジェクトの講師には、国連本部、ILO、UNESCO、FAO、その他国際機関の協力を得ている。1963年のプロジェクトは、以下のとおりである。

- (1) Basic Planning Course
  - 場所：サンチャゴ、期間：約4カ月。計画作成の基礎知識について研修を行なう。
- Intensive Training Courses
  - 場所：ペルー、ブラジル、ウルグァイ、エクアドル、メキシコなど、期間：3カ月。現地の計画担当機関、

## 現地報告

大学と協力し、各国の特殊事情をもとに行なう。  
Special Courses

場所；サンチャゴ，期間；約4カ月。上級職員を対象に、総合計画の中での特殊分野の計画技術について行なう。

Course on Educational Planning  
Course on Health Planning

### (2) Advisory Group

経済計画作成について、10~20名からなる顧問団を名国へ派遣する。派遣状況は、つぎのとおりである。

ウルグァイ：計画作成の組織機構について

パラグアイ：2カ年投資計画について

ボリビア：Planning system の再検討

ペルー：行政組織について

### (3) Research

国家計画と地域計画，国家計画と国際的経済統合プログラム，経済発展計画と社会発展計画などの相互関連に重点を置いた。

(4) 以上の各種プロジェクトに協力を得た諸機関は、つぎのとおりである。

ILO, UNESCO, FAO, UNICEF, IDB, OAS, US-AID, Ford Foundation.

## 5. チリ大学 (Universidad de Chile)

1843年創立，経済関係の研究所としては，Centro de Planificación Económica と Instituto de Economía がある。前者はまだ歴史も浅いが，後者は統計局と協力して，チリの農業，工鉱業，外国貿易の実証的研究に，成果を上げている。

(1) *Utilización de la capacidad instalada en 42 empresas industriales*, 1963.

(2) *El Proceso presupuestario fiscal chileno*, 1958.

(3) *El Credito agrícola en Chile*, E. Feder, 1960.

(4) *Formación de capital en las empresas industriales*, 1961.

(5) *Los Censos agrícolas en Chile*, 1962.

(6) *Los Efectos económicos de los préstamos externos; el caso chileno*, 1963.

(7) *Boletín informativo, Número 2: Aspectos de la economía al 31 de Julio de 1958*.

(8) *Boletín informativo, Número 3: Perspectivas del comercio exterior chileno y sus efectos sobre el desarrollo económico, 1959~1965*, 1959.

## 6. 書店

チリ大学の Librería Universitaria が最大のものである。豊富な資料は，他の一般の書店と格段の差である。購入した資料はつぎのとおり。

(1) *Prensa y periodismo en Chile, 1812~1956*, R. Silva Castro, 1958.

(2) *Plan de reforma y estabilización monetaria*, C. Arriagada Hurtado, 1962.

(3) *La Política económica del cobre en Chile*, M. Vera Valenzuela, 1961.

(4) *Desarrollo de Chile en la primera mitad del siglo xx*, 2 v., Univ. de Chile.

(5) *Ensayo critico del desarrollo económico-social de Chile*, J. Cesar Jobet, 1955.

(6) *Afiliación y finanzas sindicales en Chile, 1932~1959*, Univ. de Chile, 1962.

(7) *Rol industrial de Chile, 1960*, Sociedad de Fomento Fabril.

## 《後記》

本稿は今回の現地調査によって入手しえた資料を中心にして記述したもので，資料の書誌の作成を目ざしたものではない。すでに前編でもふれたように，書誌については，アメリカ合衆国あるいは米州間の諸機関がそれぞれの分野で編さん刊行しているので参照されたい。そのおもなものは下記のごとくであるが，いずれにしても，資料入手の困難さ，最新の資料情報に欠けるなどの点にもたれない面のあるのはやむをえない。

Library of Congress, Hispanic Foundation, *Handbook of Latin American Studies*.

Library of Congress, Law Library, *A guide to the law and legal literature, 1944~1948*.

Library of Congress, *A guide to the official publications of the other American republics, 1947~1948*.

Library of Congress, *Index to Latin American legislation, 1950~1960*.

Pan American Union, Columbus Memorial Library, *Index to Latin American periodical literature, 1929~1960*, 8 v., 1962.

Pan American Union, *A statement of the laws in matters affecting business*, series.

The Hispanic Society of America, *Catalog of the Library*, 10 v., 1962.

Inter American Statistical Institute, *Actividades estadísticas de las país naciones americanas*.

(図書資料部)